#6

アオフタバラン

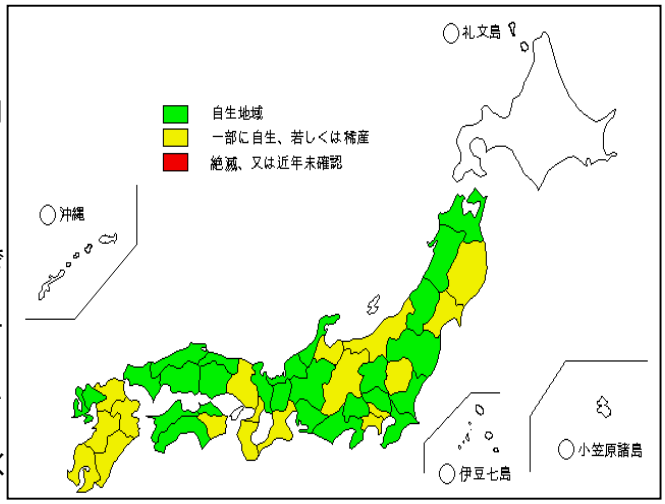
Listera makinoana

アオフタバラン（愛知県奥三河　09.8/1）

青森～屋久島までの薄暗い冷涼な山地に自生する小型の地生蘭です。フタバラン属の中では夏咲きで花も緑一色の為、かなり目立たない蘭です。

草丈は2～3cm程度で5月頃に白い筋の入った双葉を展開し、開花は8月です。あまり手入れをされていないうっそうとした杉林などを好み、しばしば群落を作ります。フタバラン属は日本に数種類が自生していますが、いずれも大きさ、形が似ており同定は難しいのですが、本種は低山～亜高山帯（本州中部でいえば1000m程度迄）に自生し、夏咲きであること、花が緑一色であること、緑の濃い葉に白のスリットが中央に一本、両サイドに1～2本入ることから区別することが出来ます。

自生量は比較的多いのですが、森林の乾燥を嫌うことや登山家の踏み荒らし、森林伐採に開発などで年々減少しております。但し、あまりにも目立たない蘭なので発見しにくく、またラン科植物だとは気付かれにくく盗掘対象になりにくい為、ラン科の中では比較的危機感の少ない種類です。



全国の冷涼な山地に自生します。

アオフタバラン（愛知県奥三河　09.6/7）

売品としてはまず出回らない為入手はほぼ不可能です。

栽培はコアツモリソウやヒメフタバラン、シュスラン属に準じますが、観賞価値は低い為あまり栽培はされておらず、「ランだから」という興味本位で安易に栽培するとすぐに飽きてしまう為、栽培はお控えいただきたい蘭です。

増殖はヒメフタバラン同様に地下茎から新芽を展開して増えますので容易です。

冬期は地上部は枯死し越冬します。

Document and photo by LittleFlower 2009

アオフタバラン（愛知県奥三河　09.6/7）

アオフタバラン（愛知県奥三河　09.6/7）

【参考】ヒメフタバラン（愛知県奥三河　09.3/21）

Document and photo by LittleFlower 2009